令和６年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立川口特別支援学校）

目指す学校像	・保護者とともに、児童生徒の力を伸ばす学校 ・人生をより豊かに生きる力を育む学校 ・保護者や地域から信頼される、安心安全な学校

重点目標	
1	児童生徒の発達と障害特性、生活年齢及び将来像を見据えた授業づくりとキャリア教育を進め、教育課程の充実を図る。
2	家庭・地域・関係諸機関との連携を密にして日々の指導・校内支援の充実を図るとともに、センター的機能を充実させながら、校外支援を進める。
3	児童生徒増に伴う過密化のもとでも事故防止を徹底し、危機管理・リスク管理意識を高め、緊急時・災害時に備えた安心安全な学校づくりを進める。
4	「一人一人を大切にする学校づくり宣言」に基づき、一人一人の人権を尊重した教育活動を進める。

達成度		
	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

＊学校関係者　評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

学校関係者	１２　名
生徒	４　名
事務局（教職員）	５名

学　校　自　己　評　価

年度目標					年度評価（令和７年１月１６日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	「本校におけるカリキュラムマネジメント」に基づき、教職員間の日々の話し合いと共通理解を丁寧に進めている。全校研修・学部ブロック研修及び、年次研修該当者等による研究授業と研究協議を実施し、発達・障害特性・生活年齢を踏まえた指導・支援と日々の授業づくりを進めている。全校研修「ライフキャリアの視点から９年間の系統性を踏まえた授業づくり」の３年目のまとめをむかえ、「各学部ブロックの時期に大切にしたい実践」について整理し、「ライフキャリア教育で育成すべき力」について検討を重ね、共通理解を深める必要がある。	児童生徒一人一人の発達・障害特性・生活年齢と、ライフキャリアの視点を踏まえた授業づくりを行う。	・「本校におけるカリキュラムマネジメント」を踏まえ、授業担当者や学部ブロック、学年等の話し合いと共通理解を大切にし、授業づくりを進める。 ・年間を通して計画的に全校研修・学部ブロック研修を実施する。年次研修を中心とした授業研究を行う。 ・各学部ブロック段階における「時期の特徴と課題」「指導上大切にしたいこと」を踏まえ、学習指導要領及びライフキャリアの視点で各教科の実践を整理し、全校で共通理解を図る。	・日常的な教職員の話し合いと授業研究等を行い、一人一人の発達・障害特性・生活年齢を踏まえた授業づくりと指導・支援が行われたか。 ・「時期の特徴と課題」「指導上大切にしたいこと」を踏まえ、充実した授業研究等が実施できたか。 ・「各学部ブロックの時期に大切にしたい実践」について整理し、「研修まとめの会」（２月実施）おいて３年間の研修の成果と課題について共通理解が図られたか。	・学部ブロックの教職員の話し合い、共通理解を大切にするとともに、年次研修該当者の研究授業と研究協議を計１６回実施し、日々の授業を充実させた。 ・ライフキャリアの視点から児童生徒の将来像を見据え、本校としての「育てたい力」について学部ブロックごとに確認・協議し、共通理解を図った。ライフキャリアを意識した授業づくりを行い、「縦割り」研動で動画視聴による研究協議を実施した。互いの実践を見合い、縦の繋がりを確認し、その内容を「研修まとめの会」で共有した。	A	・教職員間の日々の話し合いを大切にするとともにカリキュラムマネジメントを機能させ、日々の授業づくりを行う。
	学習指導要領に基づく授業づくりについての全校研修を実施し、日々の授業に活かしている。学習指導要領に示された各教科の各段階を踏まえ、現在進めている教育実践の整理を行う。学部ブロックでの教育課程反省等、話し合いと共通理解を充実させ、実践内容の引継ぎや日課表の見直し等教育課程の改善を進めた。教育課程検討委員会を中心に、小低ブロックの日課表を見直し、必要な施設調整を行った。行事（運動会・文化祭）の平日・分散開催への変更を機に、実践内容の充実や児童生徒の活躍機会の拡充等を進める必要がある。	学習指導要領及び教育課程反省を踏まえ、将来~~像~~を見据えた教育課程づくりを行う。	・学習指導要領に示された各教科の各段階や「資質・能力の三つの柱」を踏まえ、児童生徒の発達段階と学びへのねがいを捉えた各教科の指導計画や授業計画を作成する。 ・学部ブロックで教育課程反省を行い、「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」「キャリア発達段階表」「進路指導計画」等を踏まえ、児童生徒の想いを大切にした教育実践を行う。行事を含めた各時期にふさわしい教育実践を充実させ、教育課程づくりに活かす。	・学習指導要領を基に各教科の各段階と現在の教育実践の整理を行い、指導計画や授業計画に反映できたか。 ・教育課程反省を充実させ、「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」「キャリア発達段階表」「進路指導計画」等を踏まえ、行事を含めた各時期にふさわしい教育実践について検討し、児童生徒の想いを大切にした実践の継承と教育課程の見直しを行えたか。	・書式改定した年間指導計画を活用し、各教科の授業計画と反省を行い、授業改善に努めた。 ・各学部ブロックで実施する教育課程反省を踏まえ、小中学部の系統性を意識した教育課程の確認・見直しを行った。教育課程検討委員会において行事の系統性の検討・調整を議論した。 ・運動会・文化祭を平日に学部ブロックごとに分散して開催し、行事として内容の充実を図った。中学部キャリアフェスと題した近隣作業所による出張販売と「働く大人に学ぶ会」、小高ブロック近代美術館の出前授業の実施等、地域と連携した教育実践を行った。	A	・新校舎増築を踏まえた教育課程づくりを検討し、学部ブロック目標や「時期の特徴」の系統性の確認・見直しを行う。児童生徒の将来を見据え、地域社会に開かれた学校づくりを行う。
2	保護者との共通理解を丁寧に進めている。保護者の気持ちに寄り添い、困り感等の「気づき」を大切にするとともに、保護者が分かりやすい情報発信について工夫する。学校づくり懇話会兼学校運営協議会、保護者との意見交換会、後援会等の開催準備とその内容の共通理解を図り、児童生徒・保護者・教職員・関係者との対話と意見交換の場として充実させる。保護者同士のつながりを大切にし、ＰＴＡ活動等の充実のために渉外部担当を中心にＰＴＡとの連携を深める。	保護者、関係諸機関との対話を重視し、指導・支援の充実を図る。	・教職員間の情報共有を大切にし、情報発信の工夫と、保護者との共通理解を進める。 ・学校づくり懇話会兼学校運営協議会を児童生徒のねがいや意見の表明の場、関係者との対話と意見交換の場として活性化させ、共通理解を図る。 ・保護者同士のつながりを大切にし、ＰＴＡ活動等を充実させ、つながる場、情報交換の機会の場等の周知を図る。	・保護者との共通理解を深め、情報発信の工夫と児童生徒の指導・支援が行われたか。 ・学校づくり懇話会兼学校運営協議会等での対話と意見交換を充実させ、内容について教職員で共通理解が図られたか。 ・保護者同士のつながりを大切にしたＰＴＡ活動の運営や周知ができたか。	・校内委員会を５回行い、要支援ケースについての共通理解と対応の検討を行い、関係機関を含めた支援会議を 14 回開催した。5 名の外部専門家による巡回相談（のべ 166 件）を実施し、指導・支援に活かした。（12 月末まで） ・学校づくり懇話会兼学校運営協議会を３回（２回目は分校で開催）実施した。中学部代表委員による活動報告及び、委員との意見交換を行った。また、地域連携・社会に開かれた学校づくりをテーマに、小グループ討議を行った。それらの内容を職員会議で全校へ周知した。	A	・関係機関と連携をしながら校内支援体制を確立し組織的に対応する。 ・学校運営協議会での生徒参加と委員との意見交換を充実させ、その内容を学校運営と教育実践に生かす。
	支援が必要なケースについて、年間を通して校内委員会を実施するとともに、外部関係機関を含めた支援会議を行い、組織的な検討と支援を進めた。児童生徒の状況を線でなく面で捉えていく。特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談、研修支援等を実施している。関係諸機関との連携を深め、川口市、蕨市の特別支援教育を充実させる。	校内支援及び、センター的機能を充実させる。	・外部講師と連携し、児童生徒理解を深める。校内委員会及び支援会議を行い、校内支援・家庭支援を充実させる。 ・学区内の学校、保護者への教育相談を実施する。公開講座を行い、情報提供を行う。関係諸機関と連携し、地域ネットワークづくりを進める。	・特に支援が必要な児童生徒、家庭について共通理解を深め、支援が行われたか。 ・センター的機能を発揮して公開講座や教育相談を行い、川口市、蕨市の特別支援教育を充実させることができたか。	・学区内の学校、保護者への教育相談（巡回訪問 132 回、対応 42 校、のべ 334 ケース。12 月末まで）を実施。必要に応じて関係諸機関と連携し、対応した。夏季休業中に公開講座を開催し、120 名が参加した。就労支援アドバイザー研修を２回計画し、本校職員向け研修および、保護者向け講演会を実施した。戸田かけはし高等特別支援学校での福祉事業所合同説明会に職員 16 名が参加した。	A	・センター的機能を発揮し、特別支援教育に関する理解や啓発を行う。小中学部としての進路指導の理解を拡め、充実させる。
3	緊急時対応研修、ヒヤリハット報告、特別な配慮を要する児童生徒の情報交換会などを通して、内容の徹底を行った。アレルギー、てんかん発作等、特別な配慮を要する児童生徒の緊急時対応について、具体的な場面を想定した教職員研修を実施した。危機管理・リスク管理（予防的対応）意識を高め、児童生徒増に伴う過密化のもとでも事故防止を徹底する。	事故防止を徹底し安心安全な学校づくりを進める。	・企画委員会、アレルギー対策委員会等を中心に組織的に対応し、危機管理・リスク管理（予防的対応）を徹底する。 ・危険事例等の情報を教職員間で共有し、発生した事故について分析し、再発を防止する。 ・年度途中に着任した教職員用の対応マニュアルを作成し、共通理解を図る。	・危険事例や事故について全教職員で共有するとともに、安心安全のための教育環境整備が行えたか。 ・児童生徒の重大事故、アレルギー事故等を起こさないため、研修や予防的対応に取り組むことができたか。 ・年度途中着任者用の対応マニュアルを作成し、活用できたか。	・アレルギーや発作等の緊急時における職員研修を４月、10 月の２回実施し、実際の場面を想定した実践的な研修を行った。 ・アレルギー食の誤食事故が 10 月に起きた。臨時アレルギー対策委員会で再発防止策を検討し、全教職員に周知し事故の再発防止に取り組んだ。 ・年度途中着任者等に対する緊急時対応マニュアル研修を実施し、全職員の共通理解を図った。	B	・実践的な研修を行い、事故防止と危機管理についての教職員の意識を高める。施設設備の再点検と事故の際の初期対応・検証を徹底する。
	児童生徒用避難袋の学校保管を進め、災害対策委員会を中心にＰＴＡと連携して備蓄品の確認・整理整頓を行った。備蓄品の管理と更新を進める。児童生徒保護者対象の引き渡し訓練を実施する。	緊急時・災害時対策を進める。	・教職員の防災意識を高め、ＰＴＡと連携し、防災対策を行うとともに、実践的な引き渡し訓練を実施する。	・防災・安全部及び災害対策委員会を中心に、災害対策が行われたか。引き渡し訓練等を通して災害対策を進め、課題を明確化できたか。	・災害対策委員会を年６回開催し、全職員を対象に研修を実施した。７月に小１、小４，中１の保護者を対象に引き渡し訓練を実施した。防災備蓄品の購入と確認を行った。	A	工事状況を踏まえた災害対策の検討を進める。
4	職員会議で「一人一人を大切にする学校づくり宣言」の内容を全職員で確認するとともに年間を通して職員会議後に不祥事防止研修を実施した。全校研修会及び「チェックリスト」に基づく学部ブロック研修を行い、その内容を全教職員で共有した。不適切な指導根絶のため、人権尊重と合理的配慮を基本に教職員のチームワーク、保護者との信頼関係を大切にした教育活動を進める。	人権尊重に関する教職員の意識を高め、日々の教育活動に活かす。	・「一人一人を大切にする学校づくり宣言」の内容を職員会議で共通理解を図るとともに人権や合理的配慮に即した指導のあり方について研修を行う。 ・日々の教育実践を振り返るとともに教職員間の連携を深め、児童生徒や保護者との信頼関係、共通理解を大切にした指導を行う。	・研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性等について理解を深め、体罰・虐待、不適切な指導を０（ゼロ）にできたか。 ・丁寧な話し合いと共通理解によりチームワーク力を高められたか。 ・人権尊重の意識を高め、適切な教育活動を行うことができたか。	・職員会議及び不祥事防止研修において「宣言」の内容を全職員で確認した。全校人権研修を実施し、「チェックリスト」に基づく学部ブロック研修を行い、不適切な指導根絶のための話し合いを踏まえ、人権を尊重した指導を徹底した。 ・保護者との共通理解と教職員のチームワークによる指導体制を充実させた。	A	・研修や日々の振り返りを大切にし、教職員全体としての人権意識を高め、保護者との信頼関係構築とチームワークに基づく指導体制の徹底を図る。

学校関係者評価

実施日　令和７年１月３１日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○研修と授業づくりにおいて、児童生徒の実態や発達状況を丁寧に捉えて教育活動を作ることは大切。学習指導要領を踏まえ、学習内容の偏りがないか確認するようカリキュラムマネジメントを機能させてほしい。 ○ライフキャリアという観点から、社会では他者理解が自己理解よりも重要になる。代表委員生徒の報告にあったように、学校を形成する生徒と教員で一緒に学校を良くするという視点、私という個人ではなく、「私たち」という集団で活動するという仲間意識を育む実践を続けてほしい。 ○行事の開催について、他学部の実践や発表を見る時間も設定し、保護者が児童生徒の育ちの将来像を知る機会を作ってほしい。 ○校舎新設されても、充実した教育環境には程遠い。教員がいないと学校教育が成り立たないため、教員の働くゆとりある環境づくりを充実させてほしい。
○児童生徒の情報共有について、事実の共有だけでなく、背景や行動の意味とそれに対する方針の共有を同時に進めてほしい。 ○川口市内で独自の取り組みである施設連絡会との連携も進めていき、学校外の関係機関との繋がりを今後も深めてほしい。 ○保護者同士の繋がりを作ることの大切さを施設運営としても実感しているため、学校段階でもそのことを大切にしてほしい。
○リスク管理と危機管理の両方について、予防と訓練を今後も重ねてほしい。 ○災害時の対応について、備蓄品の購入内容など、災害対策委員会とＰＴＡとの連携を密にしながら進めてほしい。訓練の方法や様子を、保護者と共有してほしい。
○児童生徒に対する不適切な指導や態度・言葉遣いは、無視することも含めて体罰・虐待にあたるため、「人権を守る」という観点で日々の指導の振り返りをしてほしい。一方向的な指導ではなく、人格形成を育むような実践を通して、児童生徒の成長を図る取り組みを充実させてほしい。